

NEWS RELEASE

Vol. 100

発行/NPO法人鹿児島デザイン協会事務局

〒892-0835鹿児島市城南町2-25(協)ドゥ・アート内 TEL.099-239-0101(内13) FAX.099-224-5096 E-mail:info@doart.or.jp

2010年冬号



The theme is “Four power”



特定非営利活動法人
鹿児島デザイン協会

NYブルックリンのギャラリー (The Coal Shop)で 娘と初めての二人展

あの作品展からもう7カ月もすぎ、感動も少し薄れつつありますが、作品展を控えた日、娘のアパートの屋上で一人、木枝をペインティングしていて、暮れなずんできたので、ふと顔を上げると摩天楼が夕日を浴びて輝いていました。360度ぐりと回り、わあ〜マンハッタンでペンキ塗りしてるっていいじゃな〜い！という感覚の方は案外しっかり残っているものです。

Flower Space M - 24
西 真理子



今回の仕事場ウォッチャーは、鹿児島が誇るブランド「ボンタンアメ」で有名な、セイカ食品の製菓部部長兼広告担当の牧迫昭郎さんを市内唐湊の工場に訪ねました。

85歳と80歳

鹿児島県民なら知らない人のいない「ボンタンアメ」。なんと大正15年発売だそうです。(私の父親と同年)

パッケージデザインはボンタンの果実が「絵」から「写真」に変わっただけ。阿久根産の文旦から抽出したエキス(ボンタンオイル)や、いちき串木野周辺のサワーポメ(文旦)果汁、九州産うんしゅうみかん果汁の風味も昔のと変わらず、JRのKIOSKでの隠れたベストセラーです。

創業社長が郷土文学「大石兵六夢物語」にちなんで創作したボンタンアメの姉妹品「兵六餅」。こちらは昭和6年発売。パッケージデザインは、大高会長の父上に関わられたという説も…。(ちなみに、パッケージの大きさによって「兵六」の絵柄が異なります。機会があったら確かめてみてください。)



「デザインコンペ」への参加

昭和63年発売以来約20年経過したサツマイモキャラメル。当時売り上げが半分に落ち込み対策を検討していたところ、デザインコンペの企業課題としてはどうかと大高会長から声が掛かり、なんとデザイン大賞受賞課題となりました。ここまでパッケージのイメージを変えていいものかとの社内意見もありましたが、結果は大成功。

現在、社内には専門のデザイナーはいらっしゃいませんが、デザインを発注・評価・決定する立場として「鹿児島デザイン協会」に入会されました。2月の「デザイン百覧会」にも出展予定で、取材当日には準備もかねて、商品のディスプレイをしていただきました。



鹿児島の方々に
代々愛される商品造りに、
これからも努力して参ります。

「鹿児島にこだわること、
競合品が少ない。」
「鹿児島にこだわることが、
東京・大阪の売上げに繋がっている。」

「県外の鹿児島県出身者に 支えられているのが セイカ食品の商品です。」

セイカ食品製菓部 部長兼広告担当 牧迫 昭郎



「白くま」の商標は

セイカ食品で忘れていけないのが「南国白くま」。昭和40年代にカップ入り商品を開発。フルーツのトッピングを目立たせたい商品なので、フルーツが沈んだり、蓋の文字で隠れないようにするのに苦労されたそうです。コーヒー入りの「南国黒くま」もありますよ。

TVCMもいい味出してます。「ホッキョクグマ説」「地殻変動説」「ツキノワグマ説」「嫁探し説」の4編があります。他人を傷つけたり、不快にすることのない表現と「スパイシーさ」の両立がポイントとのこと。

実は「白くま」の商標は、県外の某メーカーが登録済で、平成10年より「南国白くま」のブランドを使用しているそうです。「ボンタンアメ」の漢字表記の「文旦飴」の中国での商標登録を急ぎましたとのこと。中国で「鹿児島」といった日本の地名や地域団体商標を第三者が商標出願するという問題がありましたが、ほんとと他人事ではないですよ。

連絡先

セイカ食品製菓部
<http://www.seikafoods.jp/>
<http://bontan-ame.com/>
〒890-0081 鹿児島市唐湊4丁目4-5
TEL 099(254)0685
FAX 099(252)8757

取材/文:久保 写真:道添





鹿兒島中央駅

「遅れた人は置いていきますよ～」朝6時集合（…無謀じゃないかの心配をよそに）、全員遅れることなく集合！



長崎駅

「はい、みんな言うこと聞いてね～」鳥栖駅での乗り換えも無事に、はくれる人も無く到着しました。

2010年11月20日(土)～21日(日) 「ゲキ★ヤス 土日乗り放題きっぷ」で行く！ 長崎二泊三日の気軽な旅。

今年の大河ドラマ「龍馬伝」に沸く長崎へ出かけました。修学旅行や慰安旅行以来の何十年ぶりという方も多く、新しい長崎の姿に驚き、大人の目と足で街を回って、思い思いに楽しんだ旅でした。複数の有名な建物探訪も旅の目的のひとつでしたが、あちこちに斬新な建物が目につくことにも驚きました。山が迫り、狭い場所にぎゅっと詰まった街ならではのアクセスの良さも魅力的です。

隈研吾設計のデザイナーズホテルへ。この壁面の感じが、レストランの天井にも引き継がれてきました。



ガーデンテラス長崎ホテル&リゾート



ガーデンテラス長崎ホテル&リゾート



ガーデンテラス長崎ホテル&リゾート

レストラン「フォレスト」にて、フルコースランチ♪



お天気にも恵まれ…
対岸の長崎市街地が一望。
港まわりに個性的な建物が目につきます。



長崎県美術館



長崎県美術館



長崎県美術館

こちら隈研吾設計の“呼吸する美術館”。開催中のスペイン近代美術展などを観覧。ガラスが印象的な建物でした。屋上から、夕景に近づく長崎の街を堪能。

丸山の築100年以上の日本家屋を改造したバーや思案橋の本欄が扉のバー、超絶おいしいちゃんぽんなど楽しみ…夜は更けます。



福砂屋本店前

毎度！『大高会長の今日の万歩計記録当て』 今年は四元哲司さんの優勝っおめでとうございます！



しっぽく「割烹とし」



長崎歴史文化博物館

次週に最終回を控えて盛り上がる「龍馬伝館」！



しっぽく「割烹とし」

夕食は長崎の郷土料理「しっぽく」。女将さんの「お膳（おひれ＝鯛のお吸い物）をどうぞ」のひと言でスタート。



BLACK DIAMOND 号

黒とオレンジの船体が
ドハデな船で、軍艦島
クルーズへ！「西さん、
その方々知らない人
ごすみね?!」



BLACK DIAMOND 号



BLACK DIAMOND 号

この人も知らない人がもれません。
…確かに日差しが強く暑いくらいでした。

軍艦島に上陸する前に、高島で
“事前学習”。高校卒業まで
軍艦島住民だったガイドさんのお話
が、心にしみます。

湾内の景色もすばらしい!!!
岩崎弥太郎がこの地で
切り開いた事業が、
今日続いていることを感じます。

「ゲキ★ヤス土日乗り放題きっぷ」で行く!
長崎泊二日の気軽な旅。



端島（軍艦島）

階段を上って行く
右の建物が、深い
深い炭鉱へ降り
るエレベーター
があったところ。



端島（軍艦島）



端島（軍艦島）

見学できるのは島のごく一部。
大人気だが1隻しか着岸できない
ため、上陸時間も短く、
少しせがされます。

緑の無かった島に、今は緑が
どんどん増えている。
建物は日々少しずつ
崩れ落ちていっていると
聞きます。



長崎原爆死没者追悼平和祈念館

栗生明設計。アプローチの池の美しさ
その意味に圧倒されます。この二つの
ガラスの間、300m先が爆心地。

みんな大人になったので、
休憩してビールを飲んだり
しました。まもなく長崎とも
お別れ。

修学旅行してきたはずだけど、
こんな感じだったかなと
記憶はあいまい。

グラバー邸



大浦天主堂

ドルフィンポートそっくりな「出島ワープ」のに
ぎわいや、夜の繁華街の人の多さ、小さな小さな
路地まで人がうごめく様子…。この活気は、大河
人気だけではないのでは?!

観光に向けるパワーも感じ、鹿児島は置いていか
れる危機感も感じました。

いろいろドタバタ(+o+)もしましたが、参加して
下さる方があってその研修旅行♪

2010年の旅も無事終わることができ、感謝の気
持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

写真・文 研修委員 川邊 佳乃

「はい、みなさんごつても
よい子でした~」
お疲れさまでした!!!



鹿児島中央駅



長崎原爆死没者追悼平和祈念館

一番奥の柱に、原爆死没者の氏名を
記載した名簿が納められています。

「上海万博」 10月19日 現地見学

開催2010年5月1日～10月31日

顧問 松下 清志

重工業を中心とした工場地帯の土地へ、住宅を中心とした新しい都市計画手法の博覧会として合理的選択で商業の中心地区に近く、俗に言うウォーターフロント。今後の発展開発の基礎づくりができた感がする。

参加国・地域・国際機関は万博史上最多の246を超え、中でもアフリカ大陸からの参加国は50を上回り、総事業費は日本円で3,900億円にもものぼる。地下鉄や空港等の都市基盤整備費には5兆5千億円もの資金を投入し、入場者数7,000万人を目標にし敷地規模328ヘクタールと、とてつもない巨大博覧会となった。

1日に40万人程度の入場者と聞いていたが、私達が訪れた10月19日は午前中で60万人、夜の部5時からの入場者を加えると80万人位いたのではないのでしょうか。しかし会場が広い為、入場者がそれほど多いと感じないスケールの大きさでした。

私は鹿児島島の“花かごしま2011”の仕事との関わりで、外観の花のディスプレイ、入口のアプローチ、通路等の演出を写真に収めいい収穫となりました。

上海万博はウォーターフロント開発



12月14日 合同委員会 忘年会

今年におやっさあ。
来年にチェストオ！

正調薩摩料理の熊襲亭で行われました。

今年の忘年会は 温故知新を考えるべき昨今の企業の推移・弱体化・短命化が叫ばれるなか、50年近く鹿児島で永続している老舗には今を生き抜くノウハウが必ずや備わっているはずとの想いで当店に決められました。

50年間ひたすらに同じことを繰り返す事実。50年前、協会理事長も学生か初任給を貰っていた頃のはず、そこそこからこの鹿児島で営業していた店は、あまり皆さん



も訪ねたことがなかったのでは、ないでしょうか？とのことで郷土料理と焼酎で、来年度に向けPOWERを付けチェストオ!!!!!!と夜は更けました。

事業委員 塩津 洋一

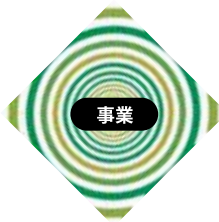
デザイン百覧会 出展者説明会 12月19日(月)10時



「県民交流センター」にて

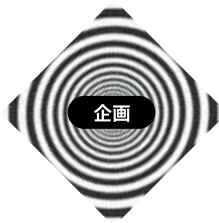
左記にてフェア出展者への全体説明会が開催されました。50名程参加いただき、会長挨拶の後、塩津委員長により搬入・搬出、ブース設置、確認・注意事項、質疑応答などが行われました。みなさん真剣なまなざしで聞き入っており、フェアへのあつい取組がひしひしと感じられました。





新年明けましておめでとうございます。

2月に行われるデザインフェアでは事業委員会は、総合展示、設営担当です。委員会のみならず2月23日県民交流センターへ作業の出来る格好でお手伝いください。また充電ドライバーをお持ちの方のご協力お待ち申し上げます。



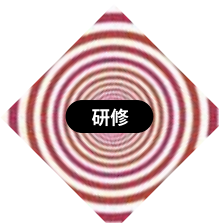
クリエイターズファイルについて

現在「鹿児島クリエイターズファイル100」の製作が進行中です。当初、デザインフェアに向けての製作を目指しておりましたが、掲載者がまだ100人に至っておらず、次年度の総会（5月）まで出版をずらすこととなりました。そこで会員の皆様に再度のお願いです。

現在、会員の方の掲載希望がまだまだ少ない状況です。どうぞ、ご遠慮することなく、掲載申し込んでください!!!やはり、自らの団体の出版物ですから、会員の皆さんが多数掲載された本にしたいと思います。お忙しいところ恐縮ですが、ぜひご検討ください。

お申し込みは、HPにあります要綱に記入し、事務局までお願い

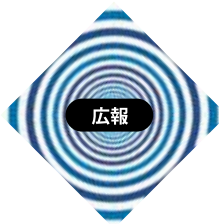
いたします。ご質問などございましたら 西田携帯 090-1349-5740までどうぞ。



「2011年度研修旅行」早くも様々なご意見。

ありがとうございます。まだの方もぜひ、ご希望をお近くの研修委員会委員へお伝えください。ついでに、いろいろ調べて企画・手配までしてもらえともっと嬉しいです(^^)

12/26に片瀬游先生が亡くなりました。委員会にはほぼ毎回参加、いつも励ましてくださっていたと感じます。昨年3月蒲生「和紙ギャラリー」でのお花見へ往復の道中が、一番思い出に残っています。同行した友人から「先生はお元気?」と聞かれたばかりでしたよ、先生。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



MBCラジオ「サザンモーニング」にてフェア告知。

新年を迎え、刻々と迫り来るデザイン百覧会。デザイン協会最大のイベントと言うべきこのフェアを成功させるために、いよいよ私も広報委員会の出番となりました。各メディアへ向けての告知依頼を中心に全力を尽くしています。また、県からラジオ広報枠をいただいております。2月20日（日）午前7時40分からのMBCラジオ「サザンモーニング」に、大高会長が出演いただきます。委員会で対談用の原稿を制作したのですが、「アドリブで大丈夫だから!」と会長曰く。何とも頼もしく・・・ぜひご試聴ください。

COLUMN

コラム

昨年からTwitter(ツイッター)に手を染め、有名どころではソフトバンクの孫社長や宇宙飛行士の野口聡一さん、身近な人では昨年の総会で知り合った「カフェめいさん」などをフォローしていたが、ふと12年前に開催された「日本文化デザイン会議'99鹿児島」のガイドブックをめくって物色し、マーケティングコンサルタントの西川りゅうじんさんを検索して彼のフォロワーになりました。先刻ご存知かと思いますが「アッシー」「コバラが減った」を始め多くの造語を流行らせたり、我が県の本格焼酎の普及にも貢献した人です。その折各所で開催された「夜楽塾」で西川塾を選び、天文館の「焼酎天国」でお互い愛用していたザウルスで名刺交換し画像にサインを貰っていたので、その店が10月に惜しまれて閉店したことをツイートすると「川崎塗料の社長さんですね」と返信があり驚きました。硬軟両面での情報の速さと論評に啓発される毎日です。 川崎 眞俊

編集後記

今回の発行で100号となります。私、協議会発足の当初から広報委員で広報誌担当の発刊第1号の編集を携わった者として、この広報誌（ニュースリリース）を通して改めてデザイン協会の歴史を感じます。

折によって100号の編集が私の番になったのも何かデザイン協会との深い縁を感じる所です。

その間ホームページの立ち上げなどのスタッフ一員とし、新たな広報ツールもお手伝いさせていただきました。

継続は力なり、皆様の協会への熱い思を内外へ発信の広報委員としての一助になれば幸いに思います。

よしごこ